

2023年4月28日

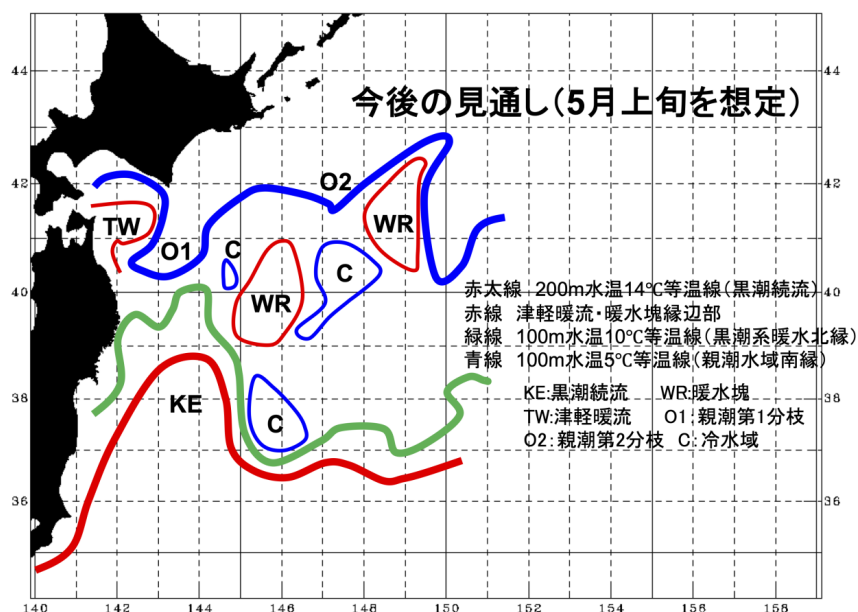
国立研究開発法人 水産研究・教育機構

2023年度 第1回 東北海区海況予報

— 別表の水産関係機関が検討し国立研究開発法人水産研究・教育機構
水産資源研究所がとりまとめた結果 —

今後の見通し(2023年4月下旬～2023年5月)のポイント

- ・ 近海の黒潮続流の北限位置は極めて北偏で推移する。
- ・ 親潮第1分枝の張り出しは平年並み～やや北偏で推移する。
- ・ 下北半島沖の暖水塊は東に移動し、三陸沖に新たに形成された暖水塊と合体する。



問い合わせ先

国立研究開発法人 水産研究・教育機構
担当：企画調整部門（横浜） 上原
海洋環境部（塩釜） 清水、田中
電話：022-365-1191、ファックス：022-367-1250
当資料のホームページ掲載先URL
<https://www.fra.affrc.go.jp/pressrelease/>

2023年度第1回東北海区海況予報

《今後の見通し（2023年4月下旬～2023年5月）》

近海の黒潮続流の北限位置は極めて北偏で推移し、親潮第1分枝の張り出しは平年並み～やや北偏で推移する。下北半島沖の暖水塊は東に移動し、三陸沖に新たに形成された暖水塊と合体する。三陸沖の暖水塊は停滞する。八戸沖の冷水域は消滅し、三陸沖に新たに複数の冷水域が形成される。

《海況の経過（2023年2月～2023年4月上旬）の特徴》

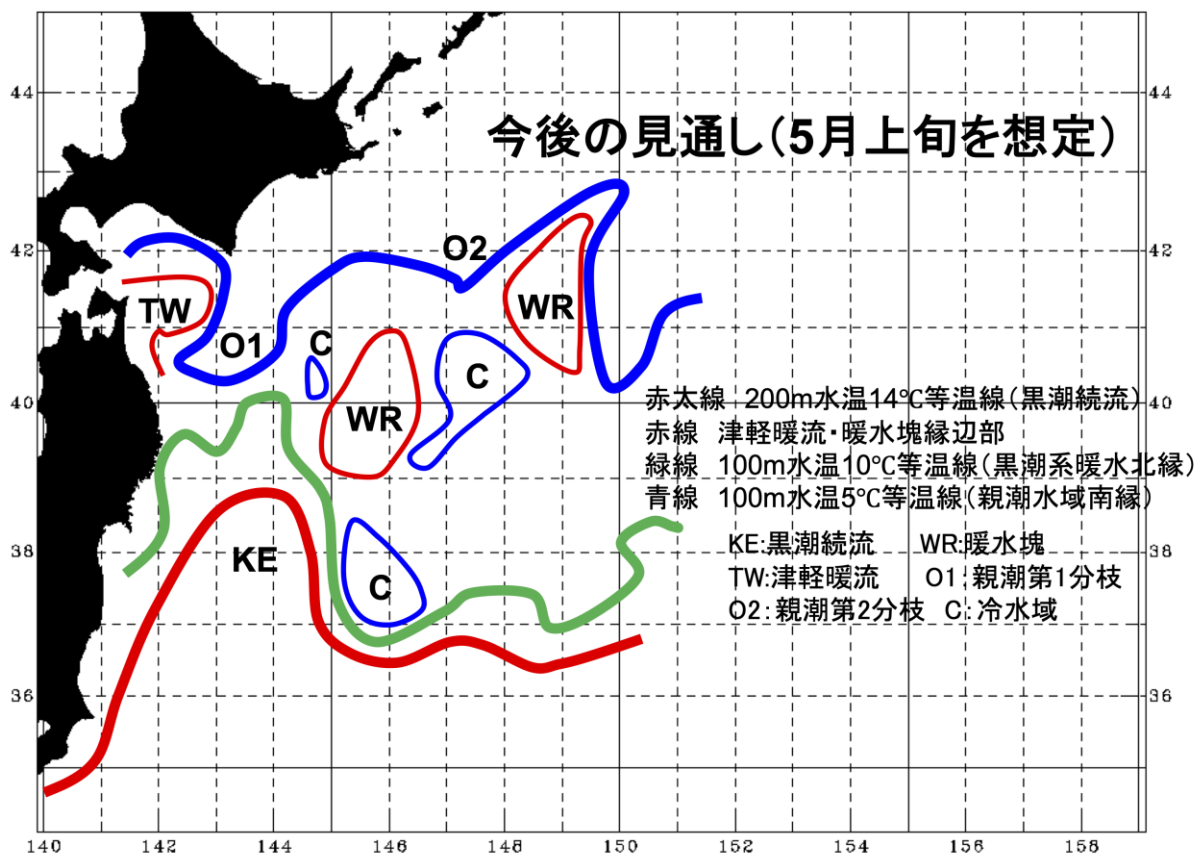
近海の黒潮続流の北限位置は極めて北偏で推移し、親潮第1分枝の張り出しは平年並み～かなり北偏で推移した。三陸沖の暖水塊は北西に移動した。

《現況（2023年4月中旬）の特徴》

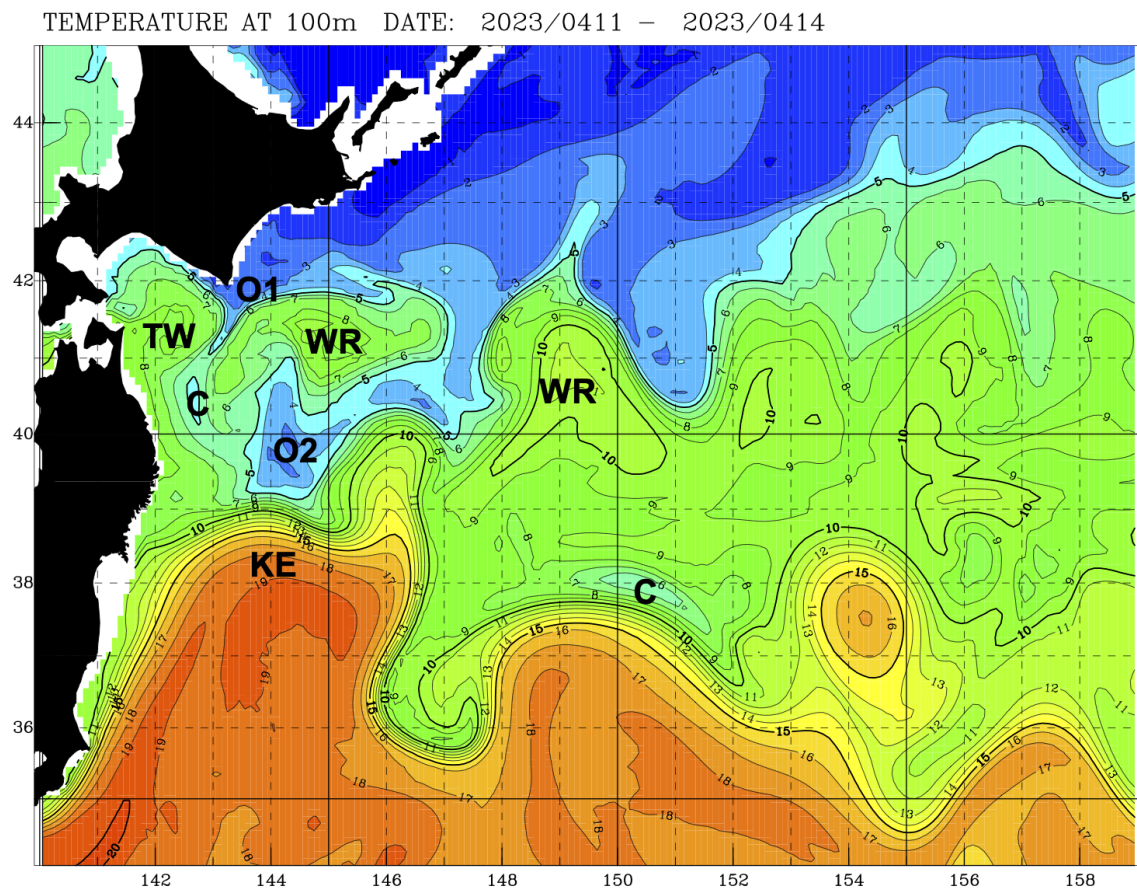
近海の黒潮続流の北限位置は極めて北偏、親潮第1分枝の張り出しはかなり北偏である。暖水塊が下北半島沖と三陸沖にある。冷水域が八戸沖にある。

（注）この海況予報は、国立研究開発法人水産研究・教育機構により開発され、2022年3月より運用を開始したFRA-ROMSⅡシステムを用いた。FRA-ROMSⅡは、我が国周辺海域の海況経過を再解析し、2ヶ月先までの海況を予測する海況予測システムである。

5月上旬予測水温分布図



4月中旬現況水温分布図（100m深）



図中の記号はそれぞれO1が親潮第1分枝、O2が親潮第2分枝、KEが黒潮続流、TWが津軽暖流、WRが暖水塊、Cが冷水域を表している。

参 画 機 関

地方独立行政法人 青森県産業技術センター 水産総合研究所	(取りまとめ機関) 国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産資源研究所
岩手県水産技術センター	
宮城県水産技術総合センター	
福島県水産海洋研究センター	
茨城県水産試験場	